

日本

貿易統計 (2020年6月)

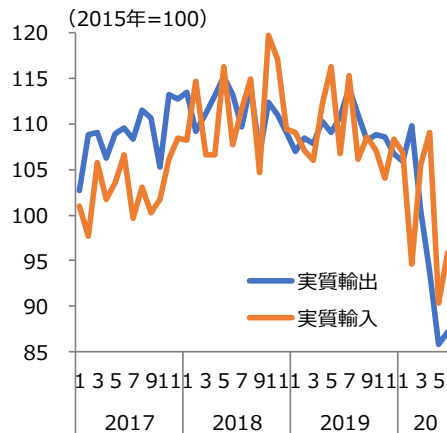
輸出に下げ止まり感も、本格回復には需給両面が制約

政策・経済研究センター

綿谷謙吾

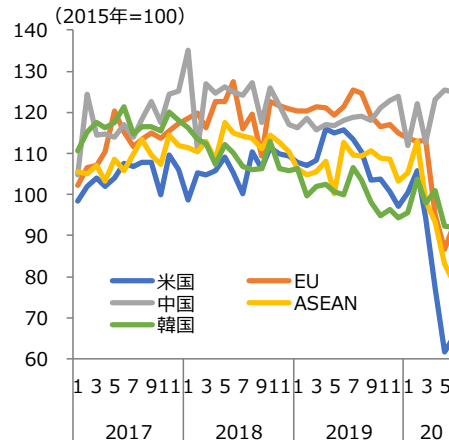
03-6858-2717

1 実質輸出入

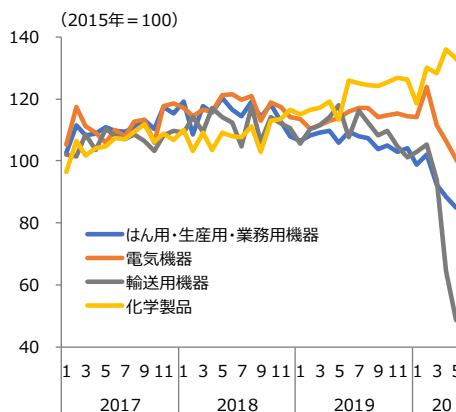


注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

2 実質輸出：国別

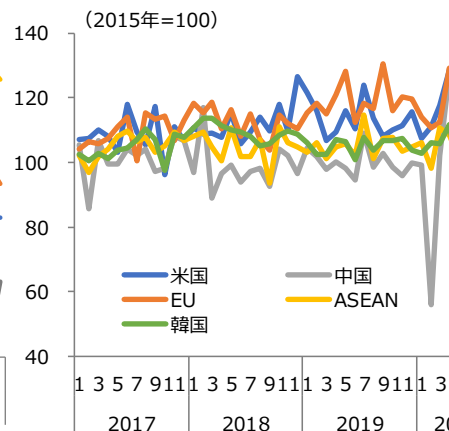


3 実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 実質輸入：国別



評価ポイント

今回の結果

- 20年6月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比+1.7%、実質輸入は、同+6.1%（図1）。貿易収支（季節調整値）は、▲4,239億円。輸出は海外経済の活動再開により、3カ月ぶりに前月比プラスに転じたものの、低水準にある。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、前月大幅に減少した米国向け（前月比+5.9%）及びEU向け（同+6.9%）が増加に転じた（図2）。3月以降急減の輸送用機器の輸出の持ち直しが全体を押し上げた。一方、中国向け（同▲0.5%）は小幅ながら減少も、コロナ前の水準まで回復している。各国の経済活動再開に伴い、海外需要は回復しつつあるが、中国向け以外は厳しい状況にある。
- 品目別では、輸送用機器が前月比+32.1%と大幅に増加（図表3）。輸送用機器は海外需要の持ち直しも、コロナ前と比較すると約6割の水準までしか回復していない。はん用・生産用・業務用機器や電気機器は減少幅が縮小した。
- 実質輸入（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、幅広い国・地域で増加した（図4）。国内外の経済活動再開を受けた、生産財・消費財の輸入増加が背景にあるとみられる。
- 四半期では、実質輸出は前期比▲15.7%の大幅減。財輸出のGDPへの寄与度は▲2.1ポイント程度。中国向け輸出は増加も、欧米向け輸出が大きく落ち込んだ。

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、新型コロナウイルスの感染拡大による海外需要の縮小から、低水準にある。
- 先行きも、低水準での推移を予想する。海外経済の活動再開により、輸出は下げ止まり感がでてきた。ただし、米国では感染者数が増加、経済活動を再度抑制する動きもあり、海外需要の回復には時間を要する。また、国内でも、感染者数が増加しており、生産活動の制約要因となる可能性がある。供給面でも輸出の回復には時間が必要だ。
- さらなる下振れリスク要因は、国内外での経済活動抑制の長期化だ。感染は依然として拡大しており、今後経済活動を再開した国で感染の第二波、第三波が発生した場合、経済活動が再度抑制される可能性がある。こうしたリスクが顕在化した場合、海外経済の減少、サプライチェーンの寸断により、輸出の停滞はさらに長期化するだろう。